



一般社団法人

千葉県

# 作業療法士会

ニ ュ ー ス



## Topics

- 学会委員会よりお知らせ
- 活動報告
- 企画委員会の活動を広報委員会が覗いてみた



# 千葉県作業療法士学会についての お知らせ

学会委員会 須藤崇行

会員の皆様には、日頃より県士会の活動に温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。皆様のお力添えにより、学会の開催を継続してまいりましたこと、あらためて深く感謝申し上げます。

これまで千葉県作業療法士学会は、学会委員会と担当ブロックが協力し、準備・運営を進めてまいりました。とりわけ従来のブロック制では、県内各ブロックが持ち回りで学会の企画や準備を担う方式を採用しており、地域の特色を活かした学会づくりが実現されてきました。一方で、担当ブロックへの負担が大きくなりやすいことや、年度末の3月開催に伴う準備の難しさなど、いくつかの課題も明らかになってきております。

こうした状況を受け、今年度は県士会全体で組織編成の見直しを進める中で、学会委員会の体制についても慎重に検討を重ねてまいりました。その結果、次回の学会より学会委員会を中心とした新たな開催体制へ移行する方針となりました。また、開催時期についても、これまでの3月から9月へ変更する予定です（次回の学会は2027年9月開催予定）。新体制のもと、より参加しやすく、学びの深い学会をお届けできるよう、今後も準備を進めてまいります。

今後の具体的な運営方針や詳細につきましては、決まり次第、県士会ニュース・ホームページ・県士会SNS等で順次お知らせいたしますので、ご確認いただけますと幸いです。

これまでブロック制による運営を支えてくださいました皆様、そして日頃から学会活動にご協力くださっている会員の皆様に、あらためて心より感謝申し上げます。今後とも温かいご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# Activity Report

## #1.東葛南部ブロック

### 「新春！東葛南部ブロック作業療法フェスティバル！」開催報告

令和8年1月18日（日）の午後、八千代リハビリテーション学院にて「新春！東葛南部ブロック作業療法フェスティバル！」を開催しました。当日は委員を含め26名が集い、講座や体験コーナーを通して作業療法への理解を深める貴重な時間となりました。

ミニ講座では「運動器作業療法を地域と繋ぐ」「認知症の人への支援」「生活期における脳血管疾患患者に対する運転支援」「医療から地域へ～障害者総合支援法と就労支援～」の4つのテーマが行われ、参加者は真剣に耳を傾け、講師との交流も活発に行われました。

体験コーナーでは「介護保険領域のQOL評価」「介助方法の伝え方」「学会スライド作成サポート」「作業療法面接とそのツール」が実施され、学会発表予定者はスライドサポートを受けて3月の学会に向けた準備を進めていました。参加者同士の情報交換も進み、学会前の交流の場として有意義な時間となりました。



今回のイベントは、令和8年3月8日開催となる、第27回千葉県作業療法士学会（作業療法の種をまく～日々の実践がつなぐ未来～）のプレ企画として実施され、参加者が知識や経験を持ち寄り交流することで、小さな学びが地域や社会に広がる“種”となることを体感できました。

東葛南部ブロックでは今後も地域に根ざした活動を通じ、作業療法の魅力を広める取り組みを続けてまいります。ご参加いただいた皆さま、運営スタッフの皆さま、ありがとうございました。

# Activity Report

## #2.福祉用具対策委員

### ICT機器が繋ぐ未来ーコミュニケーション機器研修会を開催してー

1月25日、八千代リハビリテーション学院にて、研修会「コミュニケーション機器を知ってたくさんの人にコミュニケーションを広げよう！～スイッチや視線で入力するICT機器～」を開催いたしました。当日は学生から現職の作業療法士まで幅広く集まり、NPO法人ICT救助隊の講師3名による熱意あふれる指導のもと、実践的な学びを深める一日となりました。

講師を務めてくださった方々はいずれも日々臨床に携わっているSTやOTであり、その豊富な経験に基づいたお話は、大変説得力に満ちていました。研修では、スイッチ一つで広がる可能性やiPadの工夫した活用法など、明日からすぐに試したくなる具体的なアイデアが次々と示されました。

意思伝達装置の体験では、各機種の特長・デメリットを肌で感じながら、「その方に最適な手段は何か」を評価する視点を学びました。また、導入の壁となりがちな申請方法についても丁寧にレクチャーいただき、参加者にとって「難しい」が「やってみよう」に変わる貴重な機会となりました。



今後、AIの普及によってこの分野はさらに深化し、可能性が広がっていくことは間違いありません。そうしたテクノロジーの進化を捉えつつ、対象者にとって「恵まれた支援者」であり続けることの重要性を強く再確認しました。対象者の「やりたい」を「できる」に変える。OTが掲げる「活動と参加」の支援において、ICT機器は強力な武器になります。今回の学びを糧に、一人でも多くのクライアントの生活を豊かにできるよう、臨床に還元していきたいと感じる研修となりました。

# Activity Report

## #1.千葉中央ブロック

### 千葉中央ブロック第7回交流会

【ユニバーサル・ホスピスマインドについて学ぼう！  
～苦しんでいる人から見て「わかってくれる人」になるために～】



1月31日（土）に、第7回交流会を対面で開催し、作業療法士だけでなく学生や他職種の方にもご参加いただきました。ユニバーサル・ホスピスマインドについて、精神科病棟に勤務の認定作業療法士である岡野朋子氏より講義をしていただきました。「目の前に大きな困難を抱えて苦しむ人がいたとしても、私にできることがあると思える」という目標から始まった講義では、相手の苦しみとの向き合い方や、対話におけるポイントを学び、ペアワークで実践しました。参加者からは、日々の現場での実践に活かしたいとの声や、仕事仲間との連携にも使えそう、所属先の研修会でも話してほしいなどの声も挙がりました。



## #2.発達障害委員会

### 「人間発達学を臨床にいかそう！」活動報告

2026年2月8日（日）、オンラインにて、臨床で出会う子どもたちの背景にある「人間発達学」を、臨床実践につなげて学ぶ機会として、**加藤寿宏先生**（関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科／こどもとおとなの生活科学領域 こどものそだち科学分野）をお招きし、ご講演をいただきました。当日は参加者が70名を超え、作業療法士に加え、理学療法士・言語聴覚士・保育士・学生など、多職種の方々にご参加いただきました。

私たちは日々、子どもたちの困りごとに向き合いながら、より良い支援・介入を模索しています。一方で、評価結果やマイルストーンの知識だけでは、「なぜ今この動きが難しいのか」

「何を優先して整えるべきか」を説明しきれない場面も少なくありません。今回の研修は、運動学的要素や神経学的メカニズム、そして“その動きが持つ機能的な意味”から発達を捉え直す、貴重な機会となりました。

加藤先生の語り口は分かりやすく温かみがあり、先行研究（歩行）、動画資料などを交えた講義に、参加者が終始引き込まれる充実した内容でした。発達を「運動だけの問題」として扱わない視点、姿勢・運動発達の原理を臨床観察へ落とし込む考え方（例：呼吸機能との関連）、さらに歩行獲得の機能的意義として、活動範囲の拡大が視野の広がりや三項関係、コミュニケーションへ影響し得ることなどを、丁寧にご教示いただきました。関連文献も提示いただき、学びを深める手がかりとなりました。

今回は**主に生後5～6か月頃**を中心としたお話をいただきましたが、参加者のアンケートからは前後の時期の発達や、臨床で直面する具体的な課題についてもう少し聞きたいとのお声をいただきました。当委員会では今後も皆様の期待に添える企画を考えていこうと鋭意活動していきます。ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

# Activity Report

#3.こども連携委員会

## 関東小児発達委員会 OT交流会（第二回） 参加報告

2026年1月10日、群馬県にて「関東小児発達委員会 OT交流会」が開催され、関東各都県の小児領域に関わる作業療法士が一堂に会し、情報交換および意見交換を行いました。

本交流会は昨年度より開催されており、県・都士会単位では解決が難しい課題について、関東ブロックとして解決に向けた検討を行うきっかけづくりや、各都県士会の取り組みを共有し、今後の連携およびネットワーク構築を図ることを目的として、千葉県作業療法士会こども連携委員会の企画により始まりしました。

当日は、群馬県、千葉県、茨城県、栃木県、東京都の各作業療法士会より活動報告が行われました。各士会において、五歳児健診への関与や学校・特別支援教育への作業療法士派遣、研修会・交流会の開催など、多様な取り組みが進められている一方で、人材育成や参加者確保、作業療法士の認知度向上、教育委員会や自治体との連携といった共通の課題も明らかになりました。

千葉県作業療法士会からは、発達障害委員会およびこども連携委員会の活動状況として、五歳児健診の実施状況や、小児OT派遣事業の開始等について報告しました。

交流会後半では、各県・都士会の課題を踏まえ、今後の関東交流会の在り方について協議が行われました。研修会の共同開催やeラーニング化の可能性、人材バンク・登録制度のあり方、実態調査結果の公開方法などについても意見が交わされ、各士会が連携して取り組む意義が確認することが出来ました。

本交流会を通じて、関東地域における小児作業療法の実践や課題を共有するとともに、都県を越えたつながりの重要性を改めて実感する機会となりました。今後もこのような交流の場を通じて、地域に根ざした小児作業療法の発展と支援の質の向上に貢献していきます。



# Activity Report

## 【トークセッション×交流会】 OTっておもしろい！—研究×教育×臨床のクロストーク—

2026年2月7日（土）、こども連携委員会主催によるトークセッション×交流会を開催しました。テーマは「OTっておもしろい！—研究×教育×臨床のクロストーク—」とし、西方浩一氏（文京学院大学教授）、中村拓人氏（神奈川県立保健福祉大学助教）のお二方を講師にお迎えしました。本企画は委員会として初めてのトークセッション形式での開催となりましたが、専門的で真面目な内容でありながらも、随所に笑いや共感が生まれる和やかな雰囲気の中で進行しました。プログラムは第1部トークセッション、第2部交流会の2部構成で実施し、参加者は22名でした。千葉県内のOTに加え、他県からの参加もあり、なお一部はハイブリッド形式（対面+オンライン）で実施しました。

第1部では、参加者から事前に募った「臨床・教育・研究に関する質問や疑問」をもとにトークセッションを行いました。講師の先生方から多角的な視点でのお話を伺うことができ、当日も参加者から多くの質問が寄せられるなど、活発な意見交換が行われました。専門領域を越えた率直な対話が展開され、参加者にとって学びと気づきの多い時間となりました。

第2部の交流会では、参加者同士が自由に交流する機会となり、新たなつながりの形成につながったものと思われます。今回の交流会で得られた意見や情報を踏まえ、こども連携委員会では今後の県士会活動へ反映していきたいと考えています。今後も同様の研修会・交流会を継続的に開催し、小児OT同士のつながりをさらに広げていきたいと思ひます。



## 【こども連携委員会 委員募集のご案内】

千葉県作業療法士会こども連携委員会では、発達に課題のある子どもとその家族を地域で支える体制づくりを目的に、五歳児健診への関与や小児OT派遣事業、関係機関との連携、研修会・交流会の企画など、さまざまな活動を行っています。

こうした取り組みをさらに充実させるため、委員として一緒に活動していただける会員を随時募集しています。小児領域の経験の有無は問いません。子どもの支援に関心のある方、地域連携に関わってみたい方のご参加をお待ちしております。

ご興味のある方は、下記のURLまたはQRコードよりお気軽にお申し込みください。

<https://forms.gle/qxdLDanLQB1TNNbEA>



# Activity Report

#.企画・広報委員会

## リハビリテーションを知ろう！ 作業療法体験会

令和8年1月29日（木）に千葉県立姉ヶ崎高等学校体験授業が千葉医療福祉専門学校で開催されました。

リハビリテーションの仕事を学ぶ一環として企画された体験の一環として、企画委員会、広報委員会合同でブースを出展しました。

当日は120名の学生が参加し、バッチづくりという作業が、心身の様々な機能に働きかける効果や意味を説明したあとで、実際にバッチづくりを体験してもらいました。



沢山のバッチを作る方、凝ったイラストを描く方、バッチづくりを通して作業の意味や、奥深さを経験してもらえたのではないのでしょうか。作業療法士に興味を沸かしたと話してくれる学生さんも！広報部では、このような取り組みを通して作業療法の啓発を行っていききたいと思います。



また、同校の卒業年度の学生さんに、これから作業療法士として働くために、千葉県作業療法士会ができることや、職能団体の説明、職能団体に所属して得られたことについて、松尾会長をはじめ、企画委員、広報委員よりお話をさせていただく機会を頂きました。

どの学生さんも熱心に耳を傾けてくださり、当会の活動に関心を持っていただけたのではないかと思います。



# 理事会報告

## 2025度 第8回 理事会

2025年11月12日（水） 19:00～21:00 千葉県立保健医療大学幕張キャンパスにてハイブリッド会議

松尾、兼子、今野、五味、有川、岡野、勝俣、金平、小池、坂田、佐々木海、佐々木啓、関、多田、土居、露崎、野口、袴田、横山、計19名

### 【検討事項】

1. 船橋市地域リハ協議会委員の推薦依頼について  
⇒ 古城理事継続：承認
2. OT協会 2026年度特別表彰候補者の推薦  
⇒ 日本の作業療法に貢献した方を推薦 11/19まで。
3. こども連携委員会補正予算について  
⇒ 2025年度群馬で交流会予定。交通・宿泊費4万4000円（2名分）補正承認。
4. ブロック部の補正予算について  
⇒ ブロック部会議は年5回・約12名参加、運営費不足のため3万円補正を承認。
5. 第15回杉浦地域医療振興賞/公益財団法人 杉浦記念財団の受賞候補者募集について  
⇒ 他職種と連携し地域医療に貢献した方を推薦 11/19まで。
6. 次期千葉県障害者計画策定に係る意見聴取について（12/19締切）について【継続審議】  
⇒ 県士会として提出する意見をまとめ、11/30までに提出予定。
7. 役員選挙に向けた次期体制の確認について（理事-ブロック代表交流会）【継続審議】  
⇒ 理事-ブロック代表者の交流会は年2回以上実施希望。学会運営やブロック体制の見直し、役割分担の明確化を提案。福利厚生や新人歓迎会のブロック実施を検討。5歳児健診・学校派遣は全体で議論へ。ブロック規模の見直しや他ブロックの活動共有も希望。
8. 組織図の改正案や担当理事の配置について【継続審議】
9. 令和8年の代議員選挙スケジュールについて：承認  
⇒ 選挙日程：12/8公示、1/4立候補締切、2/13投票用紙送付、2/13-27投票、3/7開票。  
役員選挙は4/1受付開始、5/1-8投票、5/11開票、6月総会で任命。周知はHP・ニュース・メール等を併用、12月に臨時周知も検討。

### 【報告事項】

1. 養成校へのOT人材下記帆のお願いについて  
⇒ 11/26に松尾会長が千葉医療福祉専門学校訪問予定。
2. 訪問介護フォーラム2025の後援依頼について  
⇒ 後援依頼の可否についてLine Worksで決裁し、承認済。先方へは通知済み。
3. 各部局委員会報告について
  - 臨床実習指導者講習会委員会：  
第2回講習会（11/8-9）実施：参加者16名（県士会6、東京都士会2、非会員8）。  
第3回は1/24-25オンライン開催、申込は12/22開始予定。
  - 司法作業療法特設委員会：  
前橋・千葉刑務所で見学実施、OTの専門性や職員との連携の在り方を把握。  
市原矯正センター見学会（11/25）は13名申込で締切、2月に職員研修の依頼あり調整中。
  - 福利厚生部：11/14ゴルフ実施予定。12/13バスは申込0名、実施目安10名で参加促進中。
  - 選挙管理委員会：委員3名（1名増員）。令和8年代議員選挙。
  - 表彰委員会：千葉県功労者表彰 池澤氏・坂田氏が受賞。県士会ニュースに掲載予定。
4. その他  
東葛南部ブロック：  
交流会・研修会の区分や講師ポイント付与等の判断根拠について要確認。教育部の再整理案を待ち、交流フェスのポイント申請可否を検討。